

2020年度 第1回学校関係者評価委員会記録

<開催概要>

【開催日時】 2020年9月15日（火） 18:30～20:00

【開催会場】 東京YMCA医療福祉専門学校（オンライン会議室）

【出席者】 山野 晴雄氏 吉野たけし氏 小泉 昌広氏
 永井 純氏

【列席者】 小野 実氏 八尾 勝氏 林 恵子氏
 倉持有希子氏（K） 中村 由美氏（OT） 中浦俊一郎氏（OT）※
 ※中浦氏は後半30分のみ出席、（K）は介護福祉科、（OT）は作業療法学科担当教員

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年度第1回委員会はオンライン（ZOOM）による開催となった。

I. YMCAデイリーメッセージ

YMCAデイリーメッセージの当該箇所を校長より読み上げた。

II. 議事

1. 委員会の進め方説明

当委員会の進め方について校長より説明がされた。特に今回はコロナ禍中における福祉施設・病院関係者の委員がいるため、オンライン開催となった旨が説明された。

2. 委員自己紹介（近況等）

委員ならびに列席者の自己紹介と近況報告がなされた。

3. 委員長（議長）選出

委員の推薦を受け、校長が議長を務めることとした。

4. 自己点検結果要約版 説明

事前に資料として配布された自己点検評価結果要約版について校長より委員へ説明がされた。

5. 質疑応答・ディスカッション

議事4.にて説明された自己点検結果について、その他学校についての幅広い質疑応答並びにディスカッションが行われた。主な質疑応答、意見については以下の通りである。

【永井委員】

作業療法学科について、国家試験合格率が昨年度より高くなっているのはどういった取り組みがあったのか？

【中村氏】

一昨年度は学生にとにかく「やりなさい」という指導方法だった。昨年度は三科目模試を実施し、詰め込んだ知識をアウトプットする機会を設けた。また、より小グループに分かれたゼミ形式とし、一人ひとりの学生に合わせた指導ができた。今年度も同様の合格率を目指して指導を行う。

【永井委員】

AO入試実施二年目だが、学生募集にどのように影響があったか？

【小野氏】

現在、すでに2021年度のエントリーが始まっているが昨年並みの数字となっている。

(2019年度AO入試実績：介護福祉科は[エントリー6名/合格者6名/入学者6名/(新入生40名)]。作業療法学科[エントリー15名/合格者13名/入学者12名/(新入生22名)])

【八尾氏】

現状昨年並みの数字ではあるが、介護福祉士養成施設協会(介養協)の集まりの中でも、思ったよりコロナ禍の影響は少なかったという意見もある。4月・5月と高校の進路指導が行き届かなかったかもしれないが、昨年よりも高校生の出願は増えるのではないかと考えている。

【山野委員】

2019年度の評価については適切に行われていると思うが、今年度のスタートはコロナ禍によって計画が大きく狂ったのではないと思われる。ここまでのコロナ禍対策、また年度後半に向けた対策などを説明願いたい。

【小野氏】(学校全体の取り組み)

年度開始当初は4月20日まで学校休校としていたが、4月7日に大都市を中心とした緊急事態宣言が発出されたことを受け、休校期間を5月ゴールデンウィーク明けまで延長した。その間に遠隔(オンライン)授業実施に向けた準備を行い、5月7日からオンライン(ZOOM)による授業が始まった。ZOOM実施の環境整備、学生全員に学校発行のアカウントを配布し、Googleのサービスを活用できる環境を整えた。

【倉持氏】(介護福祉科の取り組み)

これまで学生との距離の近さが学校の良さであり、教員の強みでもあった。コロナ禍によって180度考えを変えなければならなくなった。オンライン授業を行うことによって新たな授業ツールを持つことができたのは、コロナ禍以降も学生指導に役立てることができると思う。一方で、オンライン授業によってストレスを抱える学生も出てきている。また、ネットさえ繋がっていればどこでも授業を受けることができる、と考える学生もおり、中には移動中の学生も見受けられた。このような環境下においても力強く対応できる「心の体力」をどのように身に付けるか、いかに人間性を育てることができるかが課題となっている。

【中村氏】(作業療法学科の取り組み)

オンラインによるスタートとなり、学生はもちろん教員たちもオンラインによる授業展開を余儀なくされた。前期末に行われた定期試験では生理学や解剖学といった科目の点数が昨年実績を下回る結果となった。さっそく学年・担任の枠を越えた学生担当制を行い学生指導に取り組んでいる。

実習実施については実習先確保に苦慮した。実習前2週間の経過観察期間を設けるなどの対策を行いなんとか行うことができている。ただし、コロナ禍の影響によって様々な事情を抱える学生もおり、学内実習を行う学生もいる。

【吉野委員】(学校関係者の立場から)

自分が校長を務める専門学校(二葉ファッションアカデミー)においてもYMCAとほぼ同様の取り組みを行った。学生層の違いもあるかもしれないがオンライン授業に対する学生の抵抗感は少ないようだ。若い人のアイデアや対応力には驚かされる。学生募集については昨年比70%くらいか。もっと減ってしまうと思ったので健闘している。オンライン広報はもっと研究してコンテンツを広げていこうと考えている。「来校する」ことが障壁となっていた層に到達できるチャンスと捉えている。

【小泉委員】(福祉関係者の立場から)

「オンライン」には縁がなく、今回の会議も初めての体験。学校の授業に招かれてオンライン授業を行った経験があるが、対面授業に比べて温度差がある気がした。自分の伝えたいことに対して共感できているのかがわからない。福祉の現場では外国人が増えてきており、日本人だけではなく外国人の指導者も必要と感じるようになった。

【永井委員】(病院関係者の立場から)

新入職員が50名ほど入職したが、求人活動はすべてオンラインで行った。入職後、担当病棟以外への出入りはできない。ゾーニングを徹底している。今(9月)になっても会ったことがない職員が大勢いる。病院内でオンライン懇親会を開き、開催するたびに新入職員をフューチャーして、「●●さんを知る会」といった趣向を凝らして交流をはかっている。

【八尾氏】

コロナ禍によって様々な変化が生まれた。本日学校から報告した内容についても現在進行形のことが多くある。次回の委員会ではさらにその後の変化や状況についてご報告できるようにしたい。

III. 次回日程

2020年11月11日(水) 18:30~20:00

(記録:小野 実)